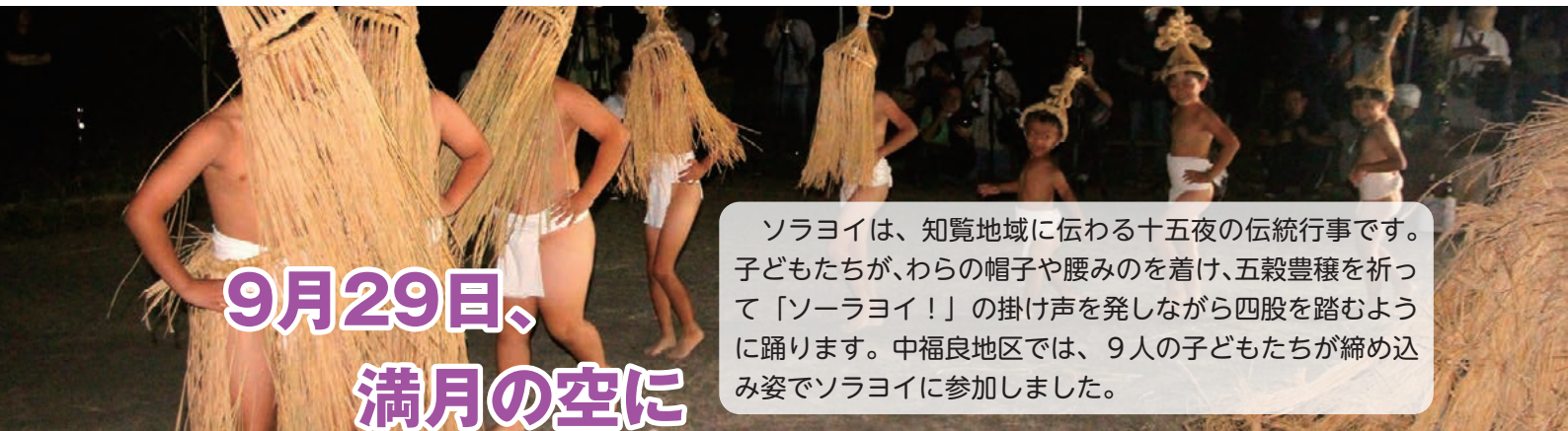




9月29日、 満月の空に

ソラヨイは、知覧地域に伝わる十五夜の伝統行事です。子どもたちが、わらの帽子や腰みのを着け、五穀豊穡を祈って「ソーラヨイ！」の掛け声を発しながら四股を踏むように踊ります。中福良地区では、9人の子どもたちが締め込み姿でソラヨイに参加しました。



「ソラヨイ！」の声響く

浮辺自治会では、5人の子どもたちが踊りました。長く受け継がれてきた行事ですが、来年はカシタ（リーダー）を務める中学1年生もおらず、小学生が3人だけになることから、浮辺自治会では今年を最後に休止すると決めました。子どもたちの最後の掛け声が響いていました。

～受賞おめでとうございます～

「道路愛護優良団体表彰」伝達式



9月1日、道路愛護に功績のあった団体をたたえる伝達式が県南薩地域振興局で行われ、道路愛護知事表彰を中須自治会(前列右から2番目)・横井場自治会(3番目)・雪丸自治会(4番目)が受賞しました。

式では、竹内文紀南薩地域振興局長より表彰状が授与され「皆さまの活動は地域の景観・交通安全にも貢献しており感謝します」と祝辞。また、市長が「日頃の生活は道路に依存しており、愛護作業において自分の身になって地域の道路を清掃していただいている」と感謝とお礼の言葉を贈りました。

～最後の運動会～

額娃幼稚園なかよし運動会



9月16日、額娃幼稚園の最後の運動会が開催されました。

額娃幼稚園は、昭和48年に額娃小学校内に開園され、50年の間、額娃地域の皆さんに親しまれてきましたが、今年度をもって休園という形で幕を閉じます。

運動会には、歴代の先生方や卒園生、地域の皆さんが応援に駆け付け、頑張った2人の園児と一緒に、かけっこ・ダンス・綱引き・玉入れなどプログラムを最後まで楽しみました。



～鹿児島県青少年国際協力体験事業～

マレーシアでの経験を生かして



8月22日、鹿児島県青少年国際協力体験事業に参加した加世田高校1年の大渡彩也華さんが、活動報告をするため教育委員会を訪れました。

今年度は7月23日から7月30日までの期間、県内の中高生15人がマレーシアに派遣されました。大渡さんは「スタディツアーで学んだこと、感じたことを周りの人に伝えていきたいと思っています。よりたくさんの人とコミュニケーションをとれるようになるために、英語の勉強をしっかりと、ペラペラと話せるようになりたいです」と話しました。

～夏休み木工教室in南九州市～

木製椅子づくりに挑戦



8月23日、「夏休み木工教室 in 南九州」が、諏訪運動公園で開催され、市内の小学生、保護者約40人が参加し、かごしま森林組合、県職員、市職員などの指導のもと木製椅子作りに挑戦しました。

子どもたちは、慣れない工具を使いながら、保護者や指導者と一緒にそれぞれの椅子を作り上げました。

最後に自分で作った椅子に座って、全員で記念撮影。木にふれあう貴重な夏休みの思い出となりました。

～多様な働き方を実現～

テレワーク入門セミナーを開催



9月15日に知覧文化会館で「テレワーク入門セミナー」が開催されました。

このセミナーでは、新たな働き方として注目されているテレワークについての基礎知識や実践方法について学び、参加者はテレワークの始め方や先輩ワーカーの体験談に聞き入っていました。

セミナーに引き続き、市内に3カ所あるテレワーク施設の一つである、知覧平和公園内の「PACBO」を見学し、テレワークについての知識を深める機会となりました。

～4年ぶりに全生徒が集って開催～

「夢の懸け橋」講演会



9月15日、講師に株式会社新日本科学の永田良一代表取締役会長兼社長を迎え、「学校での勉強の先に何があるのか」という演題で講演会を開催しました。今回は、川辺文化会館に市内3中学校の全生徒が集まっての開催となりました。講師は、さまざまな課題を克服しながら信念をもって進めることの大切さや、英語の学習の仕方など、中学生に分かりやすく話しました。生徒の一人は「自分がやってみようと思ったら、行動し、実践していきたい」とこれからの生活につながる感想を話していました。



まちの話題



～あなたの想いを「家族に伝えておくこと」の大切さ～ 在宅医療・介護連携普及啓発講演会



8月19日、宮崎大学医学部板井孝吉郎教授による講演会が川辺文化会館で開催されました。板井教授は、人生の最終段階における医療・ケア、延命治療について「日頃の会話のなかで、少しでも家族や大切な人に想いを伝えるきっかけになってほしい」と講演しました。参加者からは、「難しい言葉でなくても、自分の想いを気軽に家族と話し合いたい」などの感想が寄せられました。

長寿介護課地域包括ケア係では「想いをつなぐ講座」の受講希望団体を募集しています。

～災害時の対応を学ぶ～

鹿児島国際大学公開講座



9月22日に頤娃保健センターで鹿児島国際大学公開講座「災害時の対応を学び、災害に備える」が開催されました。この講座は、令和3年9月に本市と同大との間で締結された「包括連携協定」に基づいて開催されたもので、頤娃地域の地区公民館長や避難所担当職員などが参加しました。

講座では、災害時の避難所運営や備えについて、同大の川崎竜太准教授が講話し、その後、非常食の試食や新聞紙スリッパ作りなどの体験を行い、参加者らは防災への意識を高めていました。

～有限会社永照電気～

南九州市開催競技における企業協賛贈呈式



9月20日、有限会社永照電気が市内小学校児童に「えんぴつ」、市内中学校生徒に「蛍光ペン」を提供しました。これは「燃ゆる感動かごしま国体・大会」南九州市開催競技の成功に向けた思いから、国体を盛り上げるため参加チームへの応援のぼり旗作成や会場内を彩るプランターを育てた市内小中学校に贈るものです。

代表取締役の河野洋一郎さんは「少しでも生徒・児童の興味が向上することに寄与できれば」と話し、市長から感謝状が贈られました。

～市の魅力を発信！～

南九州市観光ガイド研修



一般社団法人南九州市観光協会は、令和6年度から予定している南九州市観光ガイドの有償化に向け、観光ガイドの資質向上と育成に取り組んでいます。

9月4日は、文化財課の学芸員を講師に迎え、清水磨崖仏についての現地研修を行いました。ガイドは、疑問に思ったことを質問しながら、熱心に学んでいました。最近、清水磨崖仏が組み込まれた団体ツアーが増え注目されていることから、ガイドから「これまであまり知られていなかった市の魅力を大いにPRしたい」と意気込みが聞かれました。